

【事業実績】

金沢大学近代化遺産振興事業

1. シンポジウム準備状況

9月初旬から連携館と具体的な準備に入り、中核館スタッフが各館を訪ねて打ち合わせを行った。ポスターやチラシの作成に関わる原稿や画像を相談するとともに、シンポジウムで配付する『近代化遺産散策マップ』の相談も行った。当初は、石川四高記念文化交流館内でアンケート調査を実施する予定であったが、コロナ禍のため紙媒体のアンケート調査は中止し、ポスター・チラシにQRコードを記載し、各自がスマートフォンで読み取って、アンケートを記入する方法に変更した。結果的には、この方法で250件のアンケートを集めることができた。9月中旬には、ポスター・チラシの製作と並行して、シンポジウム会場で資料などの配付で使用する金沢大学宝町キャンパスに現存する大正期に建築された建物をモチーフにしたトートバッグの製作も進めた。また講演者に講演内容を具体的に相談するとともに、資料集の原稿も依頼した。

10月に入ると、ポスター・チラシが納品され、関係機関に配付するとともに、アンケートも集まり始めた。会場となる十全講堂の下見を行い、キャンパス・ツアーの検討も開始した。11月初旬には資料集と『近代化遺産散策マップ』の編集が最終段階を迎え、シンポジウム開催前に納品された。

2. 近代化遺産シンポジウム 金沢 2022

11月27日(日)に金沢大学宝町キャンパス十全講堂で実施された。

参加者は160名であった。プログラムは以下のとおりである。



13:00-13:10 開催挨拶 和田隆志（金沢大学・学長）（写真①）

13:10-13:50 高輪築堤から近代遺産の保存を考える 辻秀人（日本考古学協会・会長，東北学院大学・教授）（写真②）

13:50-14:30 博物館明治村の金沢ゆかりの近代化遺産 中野裕子（博物館明治村・学芸員）（写真③）

14:30-15:10 金沢城・兼六園の明治維新 本康宏史（金沢星稜大学・教授）（写真④）

15:10-15:50 金沢大学の近代化遺産と近代遺跡 松永篤知（金沢大学資料館・特任助教）（写真⑤）

15:50-16:20 討論会 辻秀人，中野裕子，本康宏史，松永篤知，中村浩二（石川県立自然史資料館・館長）
石田健（石川四高記念文化交流館・学芸員）
山名田沙智子（石川県西田幾多郎記念哲学館・専門員）（写真⑥）

16:20-16:30 閉会の挨拶 中村慎一（金沢大学・理事）

16:30-17:30 キャンパス・ツアー（金沢大学医学類旧書庫，解剖標本庫，病理標本庫）（写真⑧⑨⑩）



質問する聴講者（写真⑦）

最初の講演のテーマは、近年、JR山手線の線路下で発見された「高輪築堤」であった。国内で初めて作られた鉄道の姿を今に伝える大変貴重な遺跡だが、一部の保存だけにとどまり全面的な保存には至っていない。近代化遺産は身近であるために価値を十分には理解しにくいので、積極的に近代化遺産の価値を学ぶことが必要であるという講演内容であった。

2本目の講演のテーマは、博物館明治村に移設された金沢ゆかりの建築物と機械類である。金沢大学の前身校である第四高等学校の物理化学教室と武術道場の「無声堂」、そして後に金沢大学の鶴間キャンパスとなった金沢監獄の正門、中央看守所・監房について紹介された。また、機械類では、重要文化財に指定されている「あのかち渦巻ポンプ」、また、金沢で初めて電灯を灯した辰巳発電所の発電機なども紹介された。博物館明治村は身近に眠っている文化財に目を向けており、それによって人々の心を豊かにすることを目指しているという講演内容であった。

3本目の講演のテーマは、「城下町金沢」のシンボルであった金沢城と兼六園の維新以降の歴史である。1881年1月の大火により、石川門などを除いて藩政期の建物はほぼ焼失し、近代的な軍隊施設に取って代わられた金沢城のイメージは大きく変貌した。また、日本を代表する「大名庭園」として知られる兼六園も維新以降は近代化の諸施設が置かれた都市公園としての性格を深め、兼六園は文明開化の舞台だったことが紹介された。

最後の講演のテーマは、金沢大学の宝町キャンパスと鶴間キャンパスの歴史である。金沢大学の他のキャンパスは何度も校地の移転があったが、宝町キャンパスは1905年以降、場所が変わっておらず、貴重な近代化遺産や近代遺跡が残っている。一方、鶴間キャンパスは金沢監獄・刑務所跡（1907～1970年）に位置している。このような近代化遺産・近代遺跡を保有する大学は、全国的に見ても稀有であり、これからの金沢大学は「近代化遺産が残る大学」として、各遺産の外観を維持しつつ、関連する文化財と併せて広く一般に公開していく必要があるという講演であった。

3. シンポジウム関連成果物

(1) 『近代化遺産シンポジウム金沢 2022 資料集』

全40頁の配布資料、金沢大学医学類旧書庫、解剖標本庫、病理標本庫の写真、各講演内容、アンケート結果を収録。

(2) 『近代化遺産散策マップ』

金沢大学資料館、石川県立自然史資料館、石川県西田幾多郎記念哲学館、石川四高記念文化交流館の概要とアクセス方法を紹介。クロスワード・パズルを掲載して、金沢市内の近代化遺産を紹介。

(3) 金沢大学医学類旧書庫トートバッグ

有形登録文化財申請の候補になっている本事業のシンボリックな建築物を紹介するためのトートバッグ。

(4) 動画「近代化遺産シンポジウム 金沢 2022 ダイジェスト版」

YouTubeで公開されている35分54秒の動画。開会挨拶からキャンパス・ツアーまでのシンポジウムの主要場面を収録。URL：<https://www.youtube.com/watch?v=aHbX8MWycEo>

(5) 『近代化遺産シンポジウム金沢 2022 研究報告書』

全56頁の最終報告書。『近代化遺産シンポジウム金沢 2022 資料集』の内容を修正し、討論会の内容を収録。そして全文を英語翻訳して和文と併記して掲載し、アンケート結果を収録。

4. 金沢大学資料館後期企画展「金澤モダン～金沢大学ゆかりの近代化遺産・近代遺跡を訪ねて～」

令和5年2月10日（金）から3月13日（月）まで開催した企画展示。

金沢大学構内の近代化遺産・近代遺跡を写真や関連資料とともに紹介。愛知県犬山市の博物館明治村に移築された金沢大学ゆかりの近代化遺産も、図面・文書を借用展示して紹介した。（写真⑩）



参加者の声 アンケートより

- ・近代化遺産の保存に関する課題の一つとして、考古学や歴史学といった分野以外に、その重要性があまり知られていないことである。この講演を拝聴して改めて強く感じた。
- ・金沢ゆかりの近代化遺産が持っていたよりも多く、知らないものがあったのに驚いた。他の遺産と比べて社会や世間の人々にあまり知られていないのは、何が重要であるかのアピールがされてないからではないかと思う。
- ・近代化遺産が予想よりも早い段階で失いかけていることに驚いた。社会が認識しているよりも保存環境を整えることは、急ぐ必要があると感じた。金沢城や兼六園はとても身近な存在だが、明治維新の様子も感じられるということで、とても興味深く思った。
- ・宝町キャンパスに全く縁がなかったので、明治時代から唯一移転せず残っているキャンパスであることなど、その歴史について知ることができ、大変面白かった。これほど歴史的価値がある建物が保存状態が良いままであるならば、学術機関として現在も使用されているなら難しいと思うが、もっと社会に開かれたものになれば良いように思う。
- ・近代化遺産は確かに文化財として価値が高いものであるが、遺産としての面だけでなく、同時に考えていくことが必要なのではないかと思った。それは、比較的保存状態も良く、見栄えするデザインも多い近代化遺産だからこそできることだと思うので、社会との兼ね合いが今後も重要になってくると感じた。
- ・遺産は残しておいた方が良く考えていたが、今日のシンポジウムを聞き、それらが人の在り方を遺すものであり、保存には利益に吸収されない次元の価値があるのだと思った。
- ・遺産保護のためには、自治体だけでなく周辺住民の理解も重要であるとされていたが、都心を中心とした土地不足、経済的利益などその利益面とどう折り合いをつけるかは、やはり大きな課題になると考える。
- ・近代化遺産は、古代遺跡などと比べると時間的な歴史は浅いが、日本の文明開化やアジア世界との関係性において重要な意味を持つ遺産であり、物的価値と同等もしくはそれ以上に内的価値が非常に高いものだと知ることができた。近代化遺産が取り壊されないようにするためには、現代社会の交通工事や建物建設などとの衝突を避けなければならない。そのために、街並みや外観を生かして観光資源とするのか、学校や文化的な教室などをひらく教育用施設とするのか等、現代の生活とどう結びついて活用していくのかを考えていく必要があることが分かった。
- ・全体を通じて「近代遺産を継承する意味」について考えるきっかけとなった。現在日本で暮らす人々、特に若い世代は今ある高度に発展した技術を生まれた時から享受しており、それ以前の過程を知らない。先人たちがそのような生活を送り、どのような思いで技術、文化を紡いできたのか。そこに実際に触れ、私たちが未来へ継承していく側にいることを再認識させてくれるということに、近代遺産の重要性があるのではないかと感じた。
- ・どれ程価値がある遺産でも、政府や市民の人々にその価値を理解されない限り、完全に残すのは難しいと知って驚いた。「遺産」とは何かを考えさせられた。今の我々が当たり前に見ている光景も、100年後の世界では既に重要資料になっているかもしれない。その価値が現代ではわからないという点が厄介だ。「今」を伝える資料として、一度残置を検討すると言った対策しか思いつくことができず、この解決策は何だろうかと感じた。
- ・歴史について知識がなくても、遺産を見て歴史を知るという楽しさがあり、和と洋が混じった特徴的な建築など独自の魅力が近代遺産にはあると感じた。こういった楽しみ方をより多くの人々に知ってもらい、遺産の価値理解、保存につながると良いと思った。「何が残って何が無くなっているか」ということを講師が言っていたが、そういう線引きは歴史でも現在の都市開発などでも行われていて、近代化遺産について考えるのはとても重要だと思う。遺産や遺跡は身近にあることを実感できた。だからこそそれらについて知って大切にしていきたい。
- ・自分が持っていたイメージを覆された驚きが沢山あった。全体を通して遺跡は遺跡、現代は現代と二項対立で考えるのではなく、繋がっていてどちらが良い悪いではなくどちらも尊重し合うべきと感じた。行ってみたい所も増えた。また遺跡にはどういう歴史があるのか等の知識を付けていると遺跡の見方が変わるしより楽しめると思った。
- ・今日は4つの講演及び討論会を聞くことができ、大変有難いと思った。これからもこんな活動を定期的に行っていただくと嬉しいです。本日の講師、スタッフ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。